

# NICUにおける母乳育児支援の検討

## 一心のケアに向けた看護スタッフの意識調査と今後の課題

周産期医療センター-新生児集中治療部

○三村友希 今西奈々  
倉畑景子 田川陽子  
橋本綾 有城利子

### I. はじめに

当NICUでは、平成18年10月より助産師(脇田・江南:看護学科教員)によって「乳房ケア」が始まった。そのボランティア活動の中で母親たちによって記されたノートより、母親たちは不安や悲しみ・喜びなど様々な思いを表出していることがわかった。それらより、私たちは母親たちの母乳育児に対する関心の高さを知ると同時にケアの必要性を感じた。

母乳は新生児にとって理想的な栄養であり、愛着形成を促す上でも重要であるといわれている。しかし、NICUでは母子分離を余儀なくされ母親の心理的要因からも母乳育児を継続させることが難しい状況である。坂本は母乳育児に対する看護者の説明と対応が母親の母乳・授乳に対する気持ちに強く影響する<sup>1)</sup>と述べている。だが、NICUスタッフにとっては対応するための技術の習得には時間がかかり、すぐに実施するのは難しい。そこで、私たち看護師が、心の面から母乳育児支援に関われないかと考えた。

今回私たちは、NICUスタッフの母乳育児支援についての意識調査を行い、心のケアを行うには今後ケアの中に母親とどのように関わる可能性があるかを検討した。

### II. 研究方法

1. 期間:平成19年8月27日~9月3日
2. 対象:NICU看護スタッフ34名
3. 方法:母乳育児に対する考え、「乳房ケア」導入後の母乳育児に対する考えの変化、母親からの母乳育児に関する相談経験などについて択一法と自由記述を求め、一部KJ法を用いて分析した。
4. 倫理的配慮:アンケートは無記名とし、スタッ

フへ研究目的・方法を説明し同意を得た。

### III. 結果

アンケートの回収者31名(91.1%)、有効回答者31名(100%)であった。「乳房ケア」をNICU内で行うようになる以前の母乳育児に対する考えは、「母児のスキンシップが図れ、相互作用で愛情を育むことができる」「母乳育児は愛着形成の面・栄養面・経済面からとてもよいもの」など母乳育児の良さを認識している意見が多くみられた。しかし、「重要なケアであると認識はあったが、実際どのように助言・ケアしていったらよいかわからなかった」など知識・経験の不足を感じる意見や、「NICUでは早い時期からの直接授乳ができないため難しい」「母乳は母親自身の問題で関心が低い」という意見もみられた。

「乳房ケア」による母乳育児についての考えの変化は、19名(61.2%)のスタッフにみられた。「乳房ケアの場が母の思いの表出の場となり、乳房のケアだけでなく精神面でも大きな役割を果たしている」「母乳育児支援を、搾乳や直接授乳の介助などの行為を中心に考えていたが乳房ケアを通して母親の気持ちをサポートするなど広い意味でとらえるようになった」など技術だけでなく精神的なサポートも重要という意見が特に多くみられた。また、「母乳育児に対する母親の意識の高さを知り、自分自身の母乳育児に対する関心も高まった」という意見もみられた。

実際に母親から母乳育児についての相談を受けたスタッフは、19名(55.8%)であった。その中で相談内容に対応できスタッフは、10名(52.1%)であった。相談に対応できなかった人の意見として

表1 KJ法による

「母乳育児支援において母親のために  
看護師ができること」の分類

●母親への精神的援助

- ・ 母乳育児に対する母親の努力をねぎらい励ます
- ・ 母親に母乳育児に対する自信を与え意欲を維持できるように接する
- ・ 母親が不安や悩みを表出できるようコミュニケーションをとる
- ・ 母親の悩みや不安などを傾聴する
- ・ 母親の育児に対する姿勢を理解する
- ・ 母児が触れ合える機会を作り愛着形成を促す

●看護師と助産師の情報・記録の

共有の必要性

- ・ 看護師と助産師との情報を共有する
- ・ 乳房ケアでの助産師の言動等を把握し看護師の対応を統一する

●NICUで母乳育児を支援していくための  
環境作り

- ・ 母親とゆっくり話ができる環境を作る
- ・ NICUで母乳育児を継続させる環境を作る
- ・ 母乳育児支援を行うための体制を作る
- ・ 母親と接する時間を確保する

●看護師の知識・技術の向上

- ・ 乳房ケア・母乳育児の知識を深める
- ・ 看護師が乳房ケアの技術を習得する
- ・ 母親とのコミュニケーション技術を高める

●母親の意思を高めるための

情報提供・アドバイス

- ・ 母親への技術の具体的アドバイスを行う
- ・ 母親への母乳育児に関する情報提供（支援センターの紹介）を行う
- ・ 乳房ケアへの参加を勧める

は、知識不足のため自ら母への直接的なケア・アドバイスはできていないというものが多数であった。

そのような中、母乳育児支援において母親のために看護師が出来ることを質問し、多くの意見を得た。今後の関わりを検討するためKJ法を用いて分析した結果、最終的に5つのカテゴリーが抽出された(表1)。

カテゴリーを分類すると「母親への精神的援助」「看護師と助産師の情報・記録の共有の必要性」「NICUで母乳育児を支援していくための環境作り」「看護師の知識・技術の向上」「母親の知識を高めるための情報提供・アドバイス」の5つとなった。

IV. 考察

看護スタッフは、乳房ケア開始前でも母乳育児の大切さを認識していた。しかし、NICUでは児の看護が中心となるため、母乳育児は母親の問題として考えられることが多く、また、知識・経験不足もありすすめていくことが困難であると感じていた。乳房ケア開始後では、多くのスタッフに母乳育児に対する考えの変化がみられた。これは、母親との会話に母乳育児についての話題が増え、自由記載のノートなどからケア中の母の声や思いを知るようになったためと考える。

実際に、母親から母乳育児について相談を受けたことがあるスタッフが多いことから、何らかの不安や疑問をもつ母親が多いことがわかる。しかし、その相談に適切に対応できなかったと感じているスタッフも多かった。対応はしているが知識・技術の不足から対応が不十分であったと感じるからではないかと考える。

母親の母乳育児における不安や悩みを軽減し、気持ちを持続してもらうための看護ケアについてKJ法により分析を行った。その後、5つのカテゴリーについて考察し、対策について検討した。

「母親への精神的援助」

大山は、医療者(医師・看護スタッフ)のほめ言葉、ねぎらいの言葉により母親は子どもを治療するチームのひとりだという自負を持つようになる<sup>2)</sup>と述べている。搾乳量がわずかでも母乳を持参してくれていること、長期にわたり児のために搾乳を続けて

いることなどに対し、ねぎらいの言葉・励ましの言葉をかけ母の努力を理解するよう努めることが、母のやる気や不安の軽減につながると考える。また、児がNICUに入院することは、多くの母親が想像している出産・育児からかけ離れた状況であり、喪失感や自責の念を持ち、強いストレスを感じる。傾聴・共感することで、母親の不安や悩みの表出をはかり、気持ちの整理を助ける必要がある。それは、母乳育児だけでなく、予定より早くはじまってしまった出産・育児を前向きに受け止める助けになると考えられる。

#### 「看護師と助産師の情報・記録の共有の必要性」

現在、「乳房ケア」の場で母親が助産師に語っている情報が看護師に伝わっていないことがある。これは情報の共有方法が確立していないためである。乳房ケア中の落ち着いた状況で、母親は本音を漏らすことがある。この情報は、日常私たちが母親の心や体をサポートしていく上でとても有用である。また、助産師も乳房ケア前後の母親の乳房や心の変化を知ること週に一度の乳房ケアをより有効なものにできると考えられる。さらに、個々の母親にあった乳房のケア方法を助産師から聞くことにより、NICUスタッフが継続したケアを実施することにもつながる。相互のケアをよりよいものにするためにも申し送りや、記録物の共有の方法を検討していく必要がある。

#### 「NICUで母乳育児を支援していくための環境作り」

現在のNICUでは、母親と落ち着いて話をするには不向きな環境である。昨年、当NICUで行った面会環境の研究では、両親から「アラーム音は危機的状況や不安を与える」「スタッフが非常に忙しそうに見えるため声をかけづらい」などの意見が聞かれている。両親とゆっくり話せる場所や時間を作ること、また体制を整えることで母乳育児やその他の思いが表出されることが増え、母乳育児の継続にもつながると考える。

#### 「看護師の知識・技術の向上」

母乳育児支援を心のケアの面から援助するにあたり、ある程度の知識や技術がなければ適切なアドバ

イスができない。また、相談にも対応できないため、心のケアを行う上でも不十分となる。そのため、スタッフ一人一人が母乳育児についての理解を深め、勉強会などで知識・技術の向上に努めなければならない。同時に、母の気持ちをひきだすためのコミュニケーション技術を高めることも重要であると考え

#### 「母親の知識を高めるための情報提供・アドバイス」

児が早期に生まれた場合、長期にわたり直接授乳が行えないことがある。一般的な育児書には「母子分離の状況下でいかにして乳汁分泌を維持していけばよいのか」「小さな赤ちゃんでも飲むことはできるのか」などの特殊な内容は載っていない。また、周りに経験した母親も少ない状況においてNICUスタッフから情報を提供することは、母親の不安や悩みの軽減につながる。さらに、母乳育児について相談できる地域の助産院や支援センターなど施設の紹介を行うことで、NICU退院後の不安も軽減することができる。

#### V. 結論

「乳房ケア」が始まってから、そこで表出される母親のさまざまな思いを知る機会や、母親と母乳育児について話す機会が増えた。その中で、技術だけではなく母親の精神的な支援も重要であるとスタッフ間の認識が変わってきている。

今後の課題は、

1. 傾聴・共感により母親の気持ちを理解するよう努め、ほめる・ねぎらうことで精神的サポートを行う。
2. 母親の心身をサポートできるよう看護師の知識・技術の更なる向上を図る。
3. 助産師との申し送りや記録物の共有方法を検討する。
4. 落ち着いて乳房ケアが受けられる環境作りを図る。
5. 入院中から退院後も継続して母乳育児の支援が受けられる他職種との連携を図る。

である。

## VI. 参考・引用文献

- 1) 坂本知子：母乳育児に対する看護者の説明と対応が母親に及ぼす影響，第34回日本看護学会論文集（母性看護）：37，2003.
- 2) 大山牧子：母子分離状況での母乳育児支援，周産期医学，36（6）：721，2006.
- 3) 川喜多喜美子：KJ法の思想，看護教育，147（1）：12-45，2006.
- 4) 小林康江：産後1ヶ月の母親が「できる」と思える子育ての体験，母性衛生，47（1）：117-124，2006.
- 5) 瀬尾智子：育児支援に役立つ母乳育児の最新の知識，日小医会報，28：20-25，2004.
- 6) 葉久真理：オレムの依存的ケアモデルを適用した母乳哺育継続制限要因の探究，日本助産学会誌，18（1）：6-18，2004.
- 7) 峯岡円：母乳育児推進に向けたケアの検討，第36回母性看護：12-14，2005.